

## 「学生・社会人、互いに刺激 鹿児島大学法文学部・木村ゼミ - - 平和問題テーマに議論白熱 - - 」

(『南日本新聞』1997年9月8日付)

学生も社会人も一緒に学び、考えよう - 。鹿児島大学法文学部の木村朗助教授(国際関係論・平和研究)が「他大学の学生、社会人も自由にどうぞ」と開講したゼミナ - ルに多くの社会人が参加、学生たちと論議をかわしている。「いい刺激になる」と学生。社会人の参加者にも「若い人たちと話し合い、一緒に考えることはとにかく楽しい」と好評だ。「平和問題ゼミナ - ル」は、今年四月に開講、月二回のペースで開いている。鹿大への留学生や他大学の学生の他、木村助教授のゼミの卒業生を中心に公務員、元教員、会社員など延べ三十人の社会人が参加した。

これまでに扱ったテーマは沖縄問題や旧ユー - ゴスラビア紛争。木村助教授は、「卒業生にも引き続いて学び、考える機会を、と考えていた。社会人や世代の違う人が入ることは学生にとって刺激になる」と話す。

六日に開いた十回目のゼミのテーマは「日中戦争」。夏休みに語学留学で中国を訪ねた橋口由香さん(法文学部二年)が、南京の「南京大虐殺記念館」を見学した感想や、日中戦争の経過などを報告。約二十人の出席者が、戦争責任の在り方や教科書問題などについて意見を交換した。インドネシアからの留学生二人も参加した。木村助教授は「沖縄問題、民族地域、原爆などを主なテーマに、九州、沖縄を意識しながら幅広い人に参加してもらって平和を考えたい」と話している。

次回のゼミは十月四日で、戦後処理と戦争責任をテーマにする予定。参加希望者は、木村研究室 = 099(285)7654。同ゼミのホームページアドレスは、<http://www.pluto.dti.ne.jp/~katsu-jun/kimura/peace/index.html>